

エルサルバドルの学校における環境教育

齊藤千映美*

Environmental Education in the Basic Education of El Salvador

Chiemi SAITO

Summary : Society and the environment in El Salvador was severely affected by the civil war during 1980s, and a part of educational reform after the war was related to the development of national strategy of environmental education. The present status of environmental education in the basic education of El Salvador, and its problems, are discussed.

要旨 : エルサルバドルの社会と環境は1980年代の内戦によって深く傷つけられた。内戦後の初等教育の概要と、環境教育の位置づけ、課題を検討する。また、政府の教育計画から「科学・保健・環境」「社会科」の教育内容を紹介する。

キーワード : 教育計画、環境教育、エルサルバドル、基礎教育、environmental education

1. はじめに

エルサルバドルは、16世紀のスペイン人渡来以降、長い政治的不安の歴史を戦ってきた小さな国である。面積21,040 km²は日本の四国よりひとまわり大きい程度で、そこに695万人の人々が生活している、中米でもっとも人口密度の高い国である(2007年7月現在、CIA World Fact Book 調べ)。また200万人を超える人口が米国に生活の拠点を置き、本国の家族に送金を行っている。

エルサルバドルは中米では最も発展を遂げた国のひとつであるが、最後の内戦(1980-1992)によって国土は破壊され、8万人近い人々が命を失った。その後も、内戦の影響は貧困、都市問題、不法移民、農業などに深く爪あとを残し、地震活動やハリケーンといった自然災害の影響もあって、地方に住む多くの人々が現在もなお、貧困から抜け出せずにいる(二村ほか、2006)。貧困以外の主要な環境問題には、安全な水の確保、廃棄物、森林の消失、農耕適地の減少などがある(齊藤・渡辺、2008)。エルサルバドルにおける環境教育支援の在り方を検討するために、同国の公的教育(初等教育)における環境教育の位置づけと、教科

書での取り扱いを検討した。

2. エルサルバドルの教育

エルサルバドルの公的基礎教育は、7歳から始まり9年間続く(エルサルバドル教育省、<http://www.mined.gob.sv/>)。授業の中心はスペイン語および科学と算数の基礎で、情操教育も行われる。教師の数は不足しがちで、内戦終了後の1993年には、104万人の生徒に対して四千人弱の教師しかいなかったという。このため、学校は二部制をとっており、生徒は午前部は7時から12時まで、午後部は13時から17時まで、学校を利用している。就学率は終戦後大きく改善し、2005年の小学校の就学率は92%に上る。識字率は2003年現在、80.2%である。読み書きできない人々の大半は、地方で生活している。地方の教育が遅れた最大の理由は、学校・教師の数が少ないことで、1980年代には、小学校の64%が農村部に所在しているにもかかわらず、農村部の教員の数は全体の15%に過ぎなかったという。識字率は上昇しているが、農村部の学校中退率は非常に高い。多くの男の子はまだ、15歳に達する前に仕事に着く。女の子の場合、

*宮城教育大学附属環境教育実践研究センター

家事の手伝いや家族の世話をするために中退するケースが多い。農村部の学校では、小学校6年生を修了するのは20%、9年生を修了する子供は10パーセントに満たないこともある。内戦が教育の衰退に与えた影響は大きい。

またエルサルバドルには、公立学校以外に、EDUCO (Education with Community Participation) と呼ばれる、地域社会が運営する学校システムが存在する。EDUCO は内戦時代の終わり、1991年に、農村部でももっとも貧しく隔離された地域の存続を目指して教育省が設立した機構である。教師の雇用など、学校経営に係わる支出を政府の教育予算から負担する。運営は、生徒の家族ら地域社会が中心となって実施し、それを地方自治体が支援するものである。この手法による学校は農村部に急速に広まった。事業は当初世銀からの借款によって行われたが、現在は国内予算によって実施されており、2004年には農村部の初等教育学校のうち40%がEDUCOによるものであるという。運営管理者であるコミュニティの自主性が高く質の保証が十分になされていないという見方もあるが、地域の運営の姿勢によって、特に僻地地域で、子どもたちの読み書き能力を育成する上で、大きな成果が上がっている (De Varela, et. al., 2004)。

3. 環境教育の位置づけ

環境教育の位置づけはエルサルバドルは内戦後の教育改革の対象となった。内戦によって破壊された自然や資源の復活は国の大きな課題となり、幼児教育から初等教育までの環境教育がUSAIDの支援によって検討され、1990年代に多様な活動が行われた。1996年には、国家としての環境教育の指針が作成されている。学校の教科における位置づけとしては、小学校1年生から9年生が学校で学ぶ教科で、日本でいう理科に相当する「科学・保健・環境」が、環境教育の中心である。エルサルバドルでは、この教科における小学校1年生から6年生までの学習を中心として、基礎教育における環境教育のカリキュラム開発が行われている (Green COM Project, 2005)。

小学校1年生から6年生における環境教育の取り扱いについて、「科学・保健・環境」(資料1) および

「社会科」(資料2)の教科書の学習目標を、政府発行の教育計画(写真1: Ministerio de Educacion, 2004)から学年ごとに翻訳したものを示す。



写真1: エルサルバドルの教育計画 (小学校2年生)

4. 考察

資料1からは、「科学・保健・環境」が、実際には日本の「理科」とは相当に異なる構成の教科であることがわかる。その内容は、エルサルバドルの人々が健康に生活し、環境に配慮するために必要な学習を科学的に行うことである。教科書の内容もそれに即して、たとえば人体の呼吸器の働きと衛生問題を結びつけたり、植物の成長の話が果樹栽培につながり、そこから健康と栄養の関係を論じたりする。こうして、身近な問題を科学的に論じながら、環境と人間社会が相互に依存するものであることを学ぶ構成である(写真2)。社会科の教科書においても、自然資源を持続的に活用した国の発展が重要であることは明確に述べられている(資料2)。エルサルバドルの「科学・保健・環境」

および「社会科」は、日本でいう「生活科」の時間を発展させていったもの、あるいは途上国教育で普及しつつある「ライフスキル教育」との関連性が高い。



写真2: 「科学・保健・環境」の教科書 (1年生~9年生)

理科的な観点から言えば、エルサルバドルの小学生の「科学・保健・環境」の教科書は、自然科学の中では人間の生物学的側面や生態系に関わる学習を中心としたものであり、生物学的な学習の量は多いが、地学・物理・化学の分野は相対的に量が少ない。しかし、7年生～9年生（中学生）の「科学・保健・環境」の教科書では、これらの分野についての分量が充実する。

エルサルバドルの成人には、改革後の環境教育が根付いているわけではなく、各セクターにおける環境教育への関心は高いとはいえない（斉藤・渡辺, 2007）。エルサルバドルでは、内戦後、急速な都市化とともに貧富の差が深刻化している。主要産業はコーヒー豆の生産など農業であるが、実際には資本家や先進国企業のプランテーションが優先している。農業に不向きな場所も多く、穀物生産にいたっては輸入国である。米国からの送金に頼る国民経済など、貧困の実情は国際的な要素に満ちている。このような国情の中、アメリカの支援によって製作された、優れた環境教育の教科書は、複雑な中米とアメリカの関係を象徴している。

色刷りの教科書は見た目も美しく、生活に密着した課題へと結びつく知識が詰め込まれて興味をそらすことがない。分量の減った日本の小学生の教科書よりは、はるかに学習の量も多い。しかし、その教科書を実際に個人で購入できる子供たちがどれほどいるであろう。教師自体の質にも問題があり、教科書や教育計画の充実が教育の実情にはまだ反映していない。それがエルサルバドルという国の現状でもあり、その中で教育に取り組む環境づくりとその支援こそが、今日のエルサルバドルにおける環境教育の大きな課題である。

謝辞

本調査は JICA 技術顧問の阿部憲子氏に適切なお支援・ご助言等を頂き実施された。また、資料の入手にあたりエルサルバドル JICA 事務所からは、高橋所長ほか、中野敦彦・南部裕子の両ボランティア調整員にきめ細かいご協力をいただいた。準備段階では、青年海外協力隊事務局の浦山由利恵氏にご協力をいただいた。

調査に当たり文部科学省大臣官房・国際課・国際協力政策室からは多くのご意見・示唆を頂いた。

文部科学省拠点システム構築事業「海外教育協力者に対する環境教育実践指導と教育マテリアルの支援」代表者の宮城教育大学・村松隆教授および同大学・渡辺孝男教授には本稿準備の全過程においてご指導ご助言を頂いた。

東北大学のラザロ・エチェニケ博士にはスペイン語文献の翻訳にご協力を頂いた。

関係の各位に深く感謝する。

資料

(資料 1)

科学・保健・環境教育プログラム サンサルバドル、2004

初等教育 1 年生

第 1 部 生きるということ

- 目標 1.1 生物と非生物の類似点・違いを理解する
- 目標 1.2 植物・動物を、すみか、食べ方、広がり方、増え方、人間にとっての意義といった観点から知る
- 目標 1.3 人間の体の構造と機能、保健のための衛生の必要性を知る
- 目標 1.4 感覚器官の役割、それを保護する必要性を学ぶ
- 目標 1.5 男子と女子の体の共通点・違いを学び、それを通じて相互を受け入れ、理解し、敬意を払い、自らと他者のかけがえのなさを知る。

第 2 部 健康で幸福な暮らし

- 目標 2.1 多様な栄養を健康的に摂取することで、健康を維持する習慣を身に付ける
- 目標 2.2 健康を維持するために飲料に適した水が必要であることを理解する
- 目標 2.3 子どもの死亡率を下げるため、下痢・寄生虫感染・呼吸器疾患を予防する方法を実践する
- 目標 2.4 打撲、切り傷、軽いやけど、すりむき傷その他に対する応急処置を知る
- 目標 2.5 危険や災害に出会ったときの安全確保の方法を実践する

第3部 生物とその環境

- 目標 3.1 太陽が地球の生命に与える影響を知る
- 目標 3.2 環境要素の保全に向けて、ポジティブな態度を育む
- 目標 3.3 急速な人口成長が環境かく乱の要因の一つであることを理解する
- 目標 3.4 人口成長が環境に及ぼすいくつかの問題を認識する

活動を実践する

- 目標 3.3 人口成長が環境劣化の要因の一つであることを理解する
- 目標 3.4 環境かく乱の主要因と、それを最小限にとどめて健康を守る方法を知る
- 目標 3.5 物質とエネルギーがもたらす変化を知り、人間の仕事を補助する目的でそれらが機械的に使われていることを認識する

初等教育 2 年生

第1部 生きるということ

- 目標 1.1 種間の類似点と相違点に基づいて、生き物を認識する
- 目標 1.2 脊椎動物と無脊椎動物を区別する。植物の中で草本、低木、大木を区別する。
- 目標 1.3 骨と筋肉の特徴、それを保護する方法を知る。
- 目標 1.4 人体の部位を知る。特に感覚器官の機能とそれを保護する方法を強調する
- 目標 1.5 消化器官、その機能と保健衛生について知る
- 目標 1.6 循環器と呼吸器、その機能と保健衛生について知る
- 目標 1.7 男子と女子の体の類似点と相違点を知り、それぞれの成り立ちと誕生についての概念を学ぶ

第2部 健康で幸福な暮らし

- 目標 2.1 私たちの身体の機能を十分働かせるために栄養、バランスのとれた食事、良い衛生習慣の実践が重要であることを学ぶ
- 目標 2.2 自然界における水質の多様性を明らかにし、健康を保つために飲料に適した水が必要であることを知る
- 目標 2.3 昆虫、寄生虫、哺乳類によってもたらされる一般的な病気について、その予防法を実践する
- 目標 2.4 わが国における子どもの死亡率の原因を明らかにし、その低下を目指す
- 目標 2.5 事故や災害、危険な状況下で健康と生命を守るための予防措置、緊急措置を実践する

第3部 生物とその環境

- 目標 3.1 生命保護のために環境要素が重要であることを認識する
- 目標 3.2 家庭、学校、地域の自然資源を保護するための

初等教育 3 年生

第1部 生きるということ

- 目標 1.1 生物の類似点と相違点、生息環境の構成要素とその相互作用を知る
- 目標 1.2 植物と動物を保護する方法を実践する
- 目標 1.3 歩行機能を健全に維持しつづけるための身体保護法を実践する
- 目標 1.4 感覚器官の機能、神経系との関係、保健衛生習慣によりそれを守ることの重要性を認識する。
- 目標 1.5 消化器官の構造と機能、それを健全な状態に保つための衛生習慣を実践する
- 目標 1.6 体内で循環器と呼吸器がどのように相互関連しているか明らかにする
- 目標 1.7 泌尿器の構造と、その機能を健全に保つための衛生習慣の重要性を認識する
- 目標 1.8 女性と男性の生殖器、その機能を知り、生殖・妊娠・出産の過程を理解する
- 目標 1.9 生殖能力の発達に伴う生物学的・感情的な変化を認識し、それに向けて適切な行動を獲得する

第2部 健康で幸福な暮らし

- 目標 2.1 生活のエネルギー源としての食物の重要性を知る
- 目標 2.2 健康のために水を飲料に適するものに変えることの必要性を知る
- 目標 2.3 感染症・伝染病・寄生虫に起因する病気の予防手段を実践する
- 目標 2.4 学校や家庭で、栄養を改善するために果樹栽培を行う
- 目標 2.5 事故や災害時、健康や生命を維持するために必要な、予防的対策および緊急対策を実践する

第3部 生命と環境

- 目標 3.1 生態系の構成要素と、その相互作用を知る
- 目標 3.2 自然資源とその保護が生命にとって重要であることを認識する
- 目標 3.3 急速な人口成長が環境にもたらす問題を知る
- 目標 3.4 環境かく乱の様々な形式と、それを排除するための行動実践を認識する
- 目標 3.5 物質の性質と状態を知り、自然現象のいくつかを理解する
- 目標 3.6 人間がエネルギーを利用して単純な機械を使うことと、それが労働を容易にすることの重要性を知る

初等教育 4 年生

第1部 生きるということ

- 目標 1.1 動物を、食物の種類によって分類する
- 目標 1.2 植物の器官と、植物を保護する上でそれらが果たす役割を学ぶ
- 目標 1.3 体育、食習慣、衛生習慣を強化し、健康な歩行機能を維持する
- 目標 1.4 感覚器官の機能と、その神経系との連関を維持するための衛生習慣を強化する
- 目標 1.5 消化の過程を理解し、衛生習慣・食習慣の慣行との関係を知る
- 目標 1.6 呼吸器と循環系の機械的な働きがどのように呼吸をもたらすのか、その過程を理解する
- 目標 1.7 老廃物排出を円滑に行うため、人間の排出物の起源を学ぶ
- 目標 1.8 思春期における解剖学的・心理学的な発達を分析し、性の発達を受け入れるための準備をする
- 目標 1.9 男性と女性の繁殖器官における外部・内部性器の機能を理解し、保健衛生の向上につなげる

第2部 健康で幸福な暮らし

- 目標 2.1 必要とする栄養を、食物の素材と栄養素を分類しながら学ぶ
- 目標 2.2 口腔疾患を予防するための衛生習慣を実践する
- 目標 2.3 子どもに影響を与える寄生虫、感染症、伝染病の予防手段を実践する
- 目標 2.4 学校、家庭、地域で果樹を栽培し、家庭で食べる

- 目標 2.5 日常生活につきものの事故を対象とする予防措置・応急処置を実践する
- 目標 2.6 地域に存在する危険を解決する方法を分析し、危険を回避する

第3部 生物と環境

- 目標 3.1 生命持続のために太陽光が必要であることを学ぶ
- 目標 3.2 自然資源として植物・動物・土壌を合理的に利用する方法を知る
- 目標 3.3 異なるタイプの生物共同体を認識し、人間集団がそれに与える影響を知る
- 目標 3.4 自分の住む都市または農村共同体の環境の性質と問題点を分析し、分別を持ってその解決法を見出す
- 目標 3.5 人間の仕事を容易にするいくつかの機械の機能を理解する

初等教育 5 年生

第1部 生きるということ

- 目標 1.1 動物と植物の相互作用が種、環境、人間生活の保全にとって重要であることを学ぶ
- 目標 1.2 顕花植物の光合成、呼吸、繁殖といった機能と、人間による保護を知る
- 目標 1.3 神経系の構造と生理、それを保護する必要性を知る
- 目標 1.4 消化系の構造と生理を学び、その健全な機能のためには衛生習慣の実行が重要であることを学ぶ
- 目標 1.5 呼吸器と循環器の生理学的な関係を理解し、健康維持のための衛生習慣を学ぶ
- 目標 1.6 泌尿器の健康を保つための衛生習慣の実行を強化する
- 目標 1.7 男性と女性の生殖器における、外部性器・内部性器の構造と機能を理解する。生殖への責任ある態度を養う
- 目標 1.8 受精、妊娠、出産、授乳の基礎的なプロセスを学び、すべての人の生きる権利を尊重する

第2部 健康で幸福な暮らし

- 目標 2.1 食物の保存、栄養価の維持、汚染防止のため、食事を用意するときの衛生習慣を学ぶ

- 目標 2.2 体によくはない行動を分析し、予防を行うことで、健康維持のための態度形成を図る
- 目標 2.3 とくに子どもの死亡率を下げるために、国民に大きな影響を与えている寄生虫、感染症、伝染病の予防と治療法を身に付ける
- 目標 2.4 バランスのとれた食事をとり、協力しあう精神を育むため、学校や家庭での果樹栽培を行う
- 目標 2.5 骨折、窒息、貧血といった起こりやすい事故に対する応急処置を強化する。救急箱や救急電話の適切な使用について
- 目標 2.6 人為的災害・自然災害の回避に役立つ予防的方法を身に付ける

第3部 生物と環境

- 目標 3.1 生物が太陽光を必要とすることを知ら
- 目標 3.2 生態学的な均衡と生物多様性を保全する上で、生物共同体の相互作用が持つ意義を知る
- 目標 3.3 空気と水が、生命にとって必要不可欠な環境要素であることを認識し、人口成長がその保全に与える影響を知る
- 目標 3.4 現在の環境の特徴と、その劣化につながる様々な要因を分析する
- 目標 3.5 様々な労働の方法と、エネルギーとどのように関わっているか分析する

初等教育 6 年生

第1部 生きるということ

- 目標 1.1 動物の繁殖様式を学び、生活環境を守ることにつなげる
- 目標 1.2 植物の繁殖様式としての無性生殖を知る
- 目標 1.3 光合成と呼吸が、相互依存する機能であり、生物保全の基礎であることを知る
- 目標 1.4 人体における神経系の働きを学び、外部環境や健康維持のための衛生習慣と関連づける
- 目標 1.5 生物の体内における消化系と他の系との生理学的な関連を学ぶ
- 目標 1.6 人体における循環系と他の系との相互関連を学び、個人・集団の衛生習慣を定着させる
- 目標 1.7 人体における皮膚の機能を学び、それを健全に維持することの重要性を理解する
- 目標 1.8 思春期と青年期の心理学的・生物学的な変化、

家族形成の自由とそれに伴う責任を知る。

第2部 健康で幸福な暮らし

- 目標 2.1 年齢、性、気候、労働などの条件によって必要な栄養が異なることを知り、それを満たす栄養素の働きを学ぶ。
- 目標 2.2 生物の体内におけるビタミンとミネラルの機能、疾病予防における重要性を知る。
- 目標 2.3 学校果樹園、家庭果樹園が人々の栄養改善において果たす機能を知る
- 目標 2.4 起こりやすい事故に対する応急処置を応用する。救急箱や緊急電話の使用について。
- 目標 2.5 生命が危機にさらされる状況を特定し、予防措置や適切な対策を検討する
- 目標 2.6 感染症、伝染病、薬物依存を防止する積極的な行動の実践を評価する。

第3部 生物と環境

- 目標 3.1 太陽光の存在によって地球上の気候帯や生物分布が決定されていることを知る
- 目標 3.2 生態学的な均衡の重要性とその保全のための行動の重要性を知る
- 目標 3.3 生命にとって土壌が重要であることを知り、その保全に努める責任ある態度を学ぶ
- 目標 3.4 自然資源と環境を保全するような個人の習慣を実行する
- 目標 3.5 機械の機能を理解し、機械使用の利点を学ぶ

(資料 2)

社会科プログラム

サンサルバドル、2004

初等教育 1 年生

第1部 わたしたちの学校

- 目標 1.1 自分・友達・教師が、それぞれ一人の人間として意味を持つことを知る
- 目標 1.2 学校の名前・場所・組織・機能を知る
- 目標 1.3 自分・友達に与えられた権利と義務を果たす
- 目標 1.4 自分・学校・友達のものや道具を大切に
- 目標 1.5 学校活動に敬意を払う

第2部 わたしたちの家族

- 目標 2.1 家族が社会を構成する単位であること、家が家

族生活の中心であること、そこで生活の基本的な要求が満たされることを知る

- 目標 2.2 家族が家の内外で行う活動、活動による利益を表現する。性差には触れないこと。
- 目標 2.3 家族・地域社会の一員としての権利と義務を果たす
- 目標 2.4 子どもや構成員の数をもとに、家族の大きさを区別する
- 目標 2.5 子どもが欲しいと考える夫婦は何を考慮すべきかという条件を知る
- 目標 2.6 家族集団の伝統的なお祝いの場に、敬意と楽しみを感じながら参加する

第3部 私たちの地域

- 目標 3.1 地域の物理的特徴、地域の気候、それが住民の生活に与えている影響を知る。地図上にそれらを書かせる。
- 目標 3.2 地域の人々の仕事と、その成果が個人や社会の要求をどのように満たしているか、評価する
- 目標 3.3 地域を特徴付ける生産活動と、商業交換の必要性を知る
- 目標 3.4 公共道をドライブするときの安全規範を実践する
- 目標 3.5 どのような公共サービス機関があるか、その活動・規範・権限関係・機能・そこから得られる利益を知る
- 目標 3.6 地域社会の構成員を結びつける文化の中心、レクリエーションの場所、共通の要素を知る

初等教育 2 年生

第1部 わたしたちの学校

- 目標 1.1 自分、友達、先生の、一人の人間としての価値を認識する。学校の職員の役割と、彼らのもたらす恩恵を知る。
- 目標 1.2 学校の名前を知り、学校と自分の家の相対的な位置関係を意識しながら地域の地図または絵を描く
- 目標 1.3 家族生活や学校生活を育む上での、各自の権利と義務を知る
- 目標 1.4 自分・友達・先生のことを大切にすることを実践する

- 目標 1.5 両親と共に、学校で行われる活動やパーティに参加する。

第2部 わたしたちの家族

- 目標 2.1 家族を、愛、敬意、理解を分かち合うための社会的グループとして認識する。家族メンバーとの類縁関係を認識する
- 目標 2.2 家族の仕事と、仕事が個人や家族にもたらす利益を認識する。性差は問題にしない
- 目標 2.3 家族集団内・地域における権利と義務を履行する
- 目標 2.4 家族の構成と家族の大きさの間にある関係を知る。
- 目標 2.5 母性、父性に伴う責任が家族の調和のために重要であることを知る
- 目標 2.6 家族集団や地域の伝統的なお祝いの意味を知る

第3部 わたしたちの地域

- 目標 3.1 県内において自分たちの市が置かれた地理的な位置を認識する。地理的要因が地域の天候や住民の暮らしに与える影響、暮らしを守る方法を認識する
- 目標 3.2 市民の仕事と、それが個人や社会の求めに対して何をもたらすものであるか知る
- 目標 3.3 自分たちの市の最も典型的な生産活動を知り、商業交換の必要性を認識する
- 目標 3.4 自分たちの市で道路交通網、輸送手段、社会的コミュニケーションの手段が重要であることを認識する
- 目標 3.5 市当局の主要な機能、公共サービス機関がもたらす利益を知る。
- 目標 3.6 レクリエーションの場と、それが心身の健康保持に役立つものであることを知る。国としての性格を形成する上で地域の伝統文化が重要であることを認識する。

初等教育 3 年生

第1部 わたしたちの学校

- 目標 1.1 学校のさまざまな人々を個人として、また役割別に認識する
- 目標 1.2 地域のスケッチを行い、社会的環境との関わりの中に学校を位置づける

- 目標 1.3 自分とほかの人の仕事を知り、学校を仕事を行い共存するための場所として評価する
- 目標 1.4 学校生活や家族生活における、自分と他の人の権利と義務を認識する
- 目標 1.5 自分、友達、学校の所有物や、公共物の適正な利用を実践する
- 目標 1.6 両親や地域住民の、学校活動への参加を促進する

第 2 部 わたしたちの家族

- 目標 2.1 主要な所属集団である家族の性質を理解する
- 目標 2.2 家族メンバーそれぞれに対して愛、敬意、理解、コミュニケーション、平等の念を払う
- 目標 2.3 家族人口の増加や減少の理由を、誕生、死亡、移出入の結果として説明する
- 目標 2.4 基礎的な要求を満たすためには、責任のある家族の行動が必要であることを知る
- 目標 2.5 家族の習慣、伝統、成功、集団としてのまとまりと継続を正しく評価する

第 3 部 わたしたちの地域

- 目標 3.1 方位に照らし合わせて国の中の県の位置を知る。人間の要求を満たすための物理的環境要因の相互作用を知る
- 目標 3.2 個人的な、あるいは社会的な要求を満たすために男性や女性が県で行う仕事を知る
- 目標 3.3 県における最も典型的な生産活動と、産物の商業交換の必要性を知る
- 目標 3.4 県内の道路交通網、輸送手段、社会コミュニケーション手段と、その社会経済的重要性を認識する
- 目標 3.5 自治体当局の機構と主要な機能、各部局の社会公共サービスを理解する
- 目標 3.6 県内のレクリエーションの場、文化と歴史の中心地、それらが国家の性格を形成する上での重要性を認識する

初等教育 4 年生

第 1 部 私たちの住む場所

- 目標 1.1 中央アメリカ地域における国の位置を知る。境界線、地理的な利点、欠点に留意する
- 目標 1.2 地形が気候、植生、動物相、人間の分布と人間

活動に与える影響を分析する

- 目標 1.3 水流・水系がエルサルバドルの発展に与える影響を知る
- 目標 1.4 土地がエルサルバドルの経済活動にとって重要であることを認識する
- 目標 1.5 国の自然資源と、急速な人口成長との関係を評価し、環境との調和を考える

第 2 部 私たちが作る国

- 目標 2.1 国の経済部門における主要な産物を知り、主要産物と交通網・運輸・社会コミュニケーション手段の関係を理解し、国民の要求を満たすためにそれらが重要であることを理解する。
- 目標 2.2 人間活動・社会的行為としての労働が、家族やその他の集団の要求を満たしたり、生活条件を改善するためのものであることを評価する。
- 目標 2.3 エルサルバドルの急速な人口成長の原因と結果を理解し、問題の解決法を考える
- 目標 2.4 エルサルバドルの都市と郊外の間の人口移動によって、都市生活の社会・経済・文化・環境が受ける影響を理解する
- 目標 2.5 自分の自己実現を目指して、人生の中でやってみようと思うことを描く
- 目標 2.6 子どもと女性が家庭、学校、社会で直面する社会的問題、その原因と結果を明らかにし、適切な権利義務の実現を促進する
- 目標 2.7 エルサルバドルの国家遺産を、国の性格を形作るものとして理解する

第 3 部 文化と歴史

- 目標 3.1 エルサルバドルの民族居住地の文化の特徴を分析する
- 目標 3.2 エルサルバドルの発見・征服・植民地化の原因と結果を分析する
- 目標 3.3 エルサルバドルの独立運動に影響を与えた政治・社会・経済の原因と結果を分析する
- 目標 3.4 1841-1929 の間におきた出来事と、それがエルサルバドル成立に与えた影響を理解する
- 目標 3.5 1930-1960 の間におきた主要な経済・政治・社会的な出来事と、それが人々の生活に与えた影響を分析する
- 目標 3.6 1960-1969 の間に CACM が設けられた理由と

その結果を分析する

- 目標 3.7 1970-1997 の間の社会・政治・経済的危機と、それが生存に与えた影響を分析する

初等教育 5 年生

第 1 部 私たちの住む地域

- 目標 1.1 中央アメリカの地理学的位置、その境界を知る。利点と欠点
- 目標 1.2 地形・海洋・気候の相互作用、それが中央アメリカの人間活動に与える影響を分析する
- 目標 1.3 水系が中央アメリカの発展において演じる役割を理解する
- 目標 1.4 中央アメリカ地域の自然、社会、文化の特徴を記述する
- 目標 1.5 環境の均衡を維持するため、エルサルバドルと中央アメリカ地域の自然資源を合理的に使用する必要性を理解する

第 2 部 私たち中央アメリカ市民の生活

- 目標 2.1 主要な経済活動を理解し、その経済活動と交通網、運輸、コミュニケーションの相互関係を知る。中央アメリカの経済・社会の発展に、それらがもたらす影響
- 目標 2.2 家族、労働集団の福利促進のため、協同・個人労働を生産の核と捉える
- 目標 2.3 生活の質を改善する上で、感情的にも社会的にも家族生活の充足が必要なものであることを理解する
- 目標 2.4 出産が中央アメリカの人口成長に与える影響、それが人々の生活の質にもたらす影響を分析する
- 目標 2.5 中央アメリカにおいて、田舎から都市へ、または国から国への移民によって人々が直面する問題を明らかにし、生活の質にもたらされる負の影響を考える
- 目標 2.6 個人や社会の発展を目指して自分の人生像を描き、そこにおける人々の権利や能力を認識する
- 目標 2.7 よりよい個人・家族・社会のあり方を目指して、男性と女性の権利の平等を認識する
- 目標 2.8 文化遺産とその流出の意味を評価する。

第 3 部 中央アメリカの歴史文化を学ぼう

- 目標 3.1 マヤ文明の特徴を知る
- 目標 3.2 中央アメリカ発見・征服・植民地化の原因と結果を学ぼう
- 目標 3.3 中央アメリカにおけるスペイン植民地の独立の過程を学ぼう
- 目標 3.4 1841-1929 の間におきた出来事と、それが中央アメリカ諸国の発展にもたらした影響を分析する
- 目標 3.5 1930-1960 の間に起きた中央アメリカの主な経済・政治・社会的事件を分析する
- 目標 3.6 エルサルバドルと他の国々の社会経済の発展と、工業化、統一化の過程を学ぶ
- 目標 3.7 1970-1997 の間に中央アメリカでおきた社会・政治・経済的危機を分析する

初等教育 6 年生

第 1 部 私たちの住む地域

- 目標 1.1 中央アメリカの地理学的位置、その境界を知る。人間による開発上の利点と欠点
- 目標 1.2 地形と気候の相互作用、それが中央アメリカの人間活動に与える影響を分析する
- 目標 1.3 中央アメリカの環境を保全・改善する上で、水系や土地利用がもつ重要性を理解する
- 目標 1.4 中央アメリカ地域の持続的な発展に影響をあたえる自然、社会、文化の要因を知る。共通する点と違いのある点。
- 目標 1.5 中央アメリカの環境が直面している危機を分析し、わが国の自然資源と人的資源を守るための実践的な行動を推進する

第 2 部 私たち中央アメリカ市民の生活

- 目標 2.1 中央アメリカの持続的発展を図る目的で、中央アメリカの生産セクターと、交通網、運輸、社会コミュニケーションの相互関係を理解する
- 目標 2.2 互助、団結、トラスト、共存、信用などの手段によって協力することの長所を理解する
- 目標 2.3 人格形成や中央アメリカの経済・文化の発展において家族が果たす役割を理解する
- 目標 2.4 出産が中央アメリカの人口成長に与える影響、それが人々の生活の質にもたらす影響を分析す

- る
- 目標 2.5 青年期の妊娠が持つ社会心理学的、あるいは保健上のリスクを理解する。
- 目標 2.6 移民の原因と、移民が中央アメリカの都市人口の急速な成長に与えている影響を分析する
- 目標 2.7 人々が自分の人生を設計し、意志に基づいて自由に、責任を持って決定を行う能力を持つことを知る
- 目標 2.8 中央アメリカの民主化と持続的な発展に向けて、労働者と経営者の権利・義務を理解する
- 目標 2.9 文化遺産の役割、中央アメリカ文化の保護と拡散を理解する
- 第3部 中央アメリカの歴史文化を学ぼう**
- 目標 3.1 マヤ、アステカ、インカ、チブチャ人の特徴、中央アメリカの国々の発展に与えた影響を分析する
- 目標 3.2 中央アメリカ発見・征服・植民地化の原因と結果、それらが現在の生活に与えている影響を学ぶ
- 目標 3.3 スペイン・イギリス・ポルトガル植民地の独立の原因と結果、現在の生活に与えている影響を学ぶ
- 目標 3.4 1841-1929 の間におきた歴史上・文化上の出来事と、それが中央アメリカの社会、経済、文化、政治の発展にもたらした影響を分析する
- 目標 3.5 1930-1960 の間に中央アメリカで起きた関連事

項を分析する

- 目標 3.6 中央アメリカの持続可能な発展という観点から、経済・政治・文化の統合のプロセスを理解する。
- 目標 3.7 1970-1997 の間に中央アメリカとエルサルバドルでおきた社会・政治・経済的危機を分析する

参考文献

- De Varela, L., J. L. Guzman, & D. MezaEl (2004) Salvador's EDUCO: A Community-Managed Education Program in Rural Areas. (<http://info.worldbank.org/etools/reducingpoverty/docs/newpdfs/case-summ-ElSalvador-EDUCO.pdf>)
- 二村久則, 牛田千鶴, 野田隆, 志柿光浩 (2006) ラテンアメリカ現代史〈3〉メキシコ・中米・カリブ海地域 (世界現代史). 山川出版社.
- Green COM Project (2005) Case study-El Salvador: Making Environmental Issues a National Priority. Green Com. 10P.
- Ministerio de Educacion (2004) Programa de Estudio. Education Basica. San Salvador, El Salvador.
- 斉藤千映美・渡辺孝男 (2007) 海外青年協力隊員による環境教育の支援～コスタリカ・エルサルバドルの事例から. 宮城教育大学環境教育研究紀要第10巻: 87-96